

定期作況報告

(第3号 平成15年7月20日現在)
北海道立上川農業試験場

1. 気象概況

6月下旬：最高気温は平年より2.1 高く、最低気温も平年より1.0 高かった。降水量は平年より7mm少なかった。降水日数は平年より1日少なかった。日照時間は平年より4.7時間多く、平年対比109%であった。真夏日（最高気温30 以上）は1日、夏日（最高気温25 以上）は6日間であった。

7月上旬：最高気温は平年より1.3 高く、最低気温は平年より2.1 低かった。降水量は平年より19mm少なかった。降水日数は平年より2日少なかった。日照時間は平年より17.1時間多く、平年対比142%であった。夏日は6日間であった。

7月中旬：最高気温は平年より2.1 低く、最低気温も平年より2.4 低かった。降水量は平年より25mm少なかった。降水日数は平年より2日少なかった。日照時間は平年より7.6時間少なく、平年対比84%であった。夏日は5日間であった。

6月下旬から7月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	6月下旬			7月上旬			7月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温()	24.7	22.6	2.1	25.2	23.9	1.3	23.3	25.4	2.1	24.4	24.0	0.4
最低気温()	13.0	12.0	1.0	12.3	14.4	2.1	13.2	15.6	2.4	12.8	14.0	1.2
平均気温()	18.3	17.1	1.2	18.3	18.9	0.6	17.5	20.2	2.7	18.0	18.7	0.7
降水量(mm)	14	21	7	18	37	19	22	47	25	54	105	51
降水日数(日)	2	3	1	2	4	2	3	5	2	7	12	5
日照時間(h)	54.7	50.0	4.7	57.6	40.5	17.1	40.5	48.1	7.6	152.8	138.6	14.2

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10か年の平均値。

3) 印は平年に比べて減を示す。

2. 作 況

1) 水 稲 : 平年並

事由：幼穂形成期は各品種・苗とも平年より1週間ほど早く、止葉期は平年対比で中苗「きらら397」が5日、中苗「ほしのゆめ」が6日、成苗「きらら397」が7日早かった。しかしながら、7月中旬の低温により生育は緩慢となった。7月20日現在の主稈葉数は平年対比で中苗および成苗の「きらら397」が0.2枚、中苗「ほしのゆめ」は0.6枚少なかった。㎡当たり茎数は各品種・苗ともほぼ平年並で、平年対比で中苗「きらら397」が98%、中苗「ほしのゆめ」が101%、成苗「きらら397」は96%であった。草丈は各品種・苗ともほぼ平年並であった。

以上より、目下の作況は「平年並」である。

表2 生育期節

品 種 苗	幼穂形成期(月・日)			止葉期(月・日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	6.25	7.2	7	7.14	7.19	5
ほしのゆめ 中苗	6.23	7.1	8	7.11	7.17	6
きらら397 成苗	6.22	6.29	7	7.10	7.17	7

注1) 平年値は平成8～14年7カ年のうち平成10年(最豊年)、平成14年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。ただし、「ほしのゆめ」は平成9～14年6カ年のうち同2年を除く4カ年の平均を用いた。

- 2) 印は平年に比べて早を示す。
- 3) 幼穂形成期の判定基準：全主稈幼穂長2mm
- 4) 止葉期：全茎の40～50%に達した日

表3 7月20日現在の本田生育

品 種 苗	主稈葉数(枚)			茎数(本/㎡)				草 丈(cm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	対比(%)	本年	平年	比較
きらら397 中苗	11.0	11.2	0.2	898	916	18	98	65.6	65.0	0.6
ほしのゆめ 中苗	10.1	10.7	0.6	927	918	9	101	69.4	70.9	1.5
きらら397 成苗	10.9	11.1	0.2	848	880	32	96	68.9	67.9	1.0

注1) 平年値は平成8～14年7カ年から平成10年(最豊年)、平成14年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。ただし、「ほしのゆめ」は平成9～14年6カ年のうち同2年を除く4カ年の平均を用いた。

- 2) 印は平年に比べて減を示す。

2) 秋まき小麦： 平年並

事由：出穂後の気温が平年より高く経過したため登熟は進んだが、7月の低温の影響を受け成熟期は平年並となった。稈長は平年を下回っているものの、穂長は平年並、穂数は平年をやや上回っている。

したがって、目下の作況は平年並である。

表4 7月20日の秋まき小麦の生育

品 種 名	出 穂 期 (月日)			成 熟 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
タイセツコムギ ホクシン	6.12	6.12	0	7.21	7.21	0
	6.7	6.8	1	7.16	7.16	0

品 種 名	稈 長 (cm)			穂 長 (cm)			穂 数 (本/m ²)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
タイセツコムギ ホクシン	78.6	84.2	5.6	9.2	8.8	0.4	582	528	54
	74.4	83.4	9.0	8.7	8.4	0.3	652	595	57

注1) 平年値は、前7か年中、平成9年、14年を除く5か年の平均値。

2) は平年より早を示す。 は平年より減を示す。

3) とうもろこし： 良

事由：7月中旬の低温の影響で「キタユタカ」の抽雄期は平年より3日早くなるにとどまったが、前期に引きつづき、草丈、出葉数とも平年を大きく上回っている。

したがって、目下の作況は良である。

表5 7月20日のとうもろこしの生育

品 種 名	抽 雄 期 (月日)			草 丈 (cm)			出 葉 数 (枚)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
キタユタカ P3732	7.22	7.25	3	264	215	49	18.0	16.4	1.6
	-	7.30	-	243	198	45	18.4	16.6	1.8

注1) 平年値は、前7か年中、平成12年、13年を除く5か年の平均値。

2) は平年より早を示す。

3) 平成10年度より栽植本数を 7576本 / 10aに変更した。

4) 大豆： やや不良

事由：6月下旬まで高温傾向であったが、降雨が少なく土壌は干ばつ気味に経過した。更に7月は気温が低めに経過したため、生育は停滞した。開花期は平年並から1日遅れに留まったものの、主茎長、主茎節数、分枝数はいずれも平年を下回っている。

したがって、目下の作況はやや不良である。

表6 7月20日の大豆の生育

品 種 名	開 花 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	7.15	7.14	1
トヨコマチ	7.13	7.13	0

品 種 名	主 茎 長 (cm)			主 茎 節 数 (節)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	50	53	3	8.8	10.1	1.3	5.6	6.9	1.3
トヨコマチ	56	60	4	10.2	10.9	0.7	6.4	6.8	0.4

注1) 平年値は、前7か年中、平成9年(最豊)及び平成8年(最凶)を除いた5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。

5) 小 豆： 平年並

事由：6月下旬までは高温傾向であったため、生育はやや進んだ。降雨が少なかったため干ばつ傾向となったこと、7月に入ってから気温が低めに経過したことにより、その後の生育はやや緩慢となった。主茎長、本葉数、分枝数はいずれもほぼ平年並である。

したがって、目下の作況は平年並である。

表7 7月20日の小豆の生育

品 種 名	主 茎 長 (cm)			本 葉 数 (枚)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	25.1	26.4	1.3	7.4	7.4	0	5.7	5.6	0.1
エリモショウズ	24.9	24.8	0.1	7.7	7.7	0	5.3	5.6	0.3

注1) 平年値は、前8か年中、平成14年(最豊)、平成11年(最凶)、平成12年(参考)を除いた5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。

6) ばれいしょ : 平年並

事由：6月下旬の平均気温は平年値より1.2 高く経過したが、7月に入り平年値より低く経過し、また、6月下旬から7月中旬までの降水量は平年値の5～6割程度と少なく、ほ場は干ばつ気味となった。このため、早生の「男爵薯」ではほぼ平年並の茎長となっているが、中晩生の「農林1号」の茎長は平年値を若干下回っている。
したがって、目下の作況は平年並である。

表8 7月20日のばれいしょの生育

品種名	茎長(cm)		
	本年	平年	比較
農林1号	58	67	9
男爵いも	42	40	2

注1) 平年値は、前4か年の平均値。
2) は平年より減を示す。

7) てんさい : 平年並

事由：6月下旬の平均気温は平年値より1.2 高く経過したが、7月に入り平年値より低く経過し、また、6月下旬から7月中旬までの降水量は平年値の5～6割程度と少なく、ほ場は干ばつ気味となった。このため、6月下旬頃から下位葉が萎凋下垂・黄変した。草丈ならびに生葉数は平年値を僅かに下回っているが、根周は平年並である。
したがって、目下の作況は平年並である。

表9 7月20日のてんさいの生育

品 種 名	草丈(cm)			生葉数(枚/株)			根周(cm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
モノホマレ	45	58	13	20.0	23.5	3.5	23.9	23.3	0.6

注1) 平年値は前7か年中、平成10年、11年を除く5か年の平均値。
2) は平年より減を示す。